誹諧七瀬川

中村俊定文庫
文庫 18
119

十二月の会

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一月廿[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾花部

松魔

[illegible]ある池の蓮のうゑ
家をゝ都の心ゝ仁和寺や
[illegible]ゆゝ[illegible]
東寺の塔の[illegible]
[illegible]の[illegible]
なく蟬の[illegible]

[illegible]池水に[illegible]
[illegible]そゝ[illegible]
[illegible]

一笑部

蚊雷

[illegible]茶[illegible]
編笠を
一滴

[illegible]

[illegible]

人の心はなさけ海中にあん

[illegible]

あくさしたしたの中をいつも

一枝うれしき腰やすさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

粉

白

そらとうの粉平滑のもて

草盧金
選地

石粉

清らの米かうよ拵ちまきか

ゆりはらはらきまつ四代まで

爽やかの香しかきりたその為

世とうら繰しやんとうきうい

ちやりもひよかのひ別しれ

肖ての中拾そうまてあ

よ幸ふ出きを拾ふたいわ

勝

一夜酒

左衛門

資石

生絹やうにはなをぬるまゝ〳〵書つけ

右

一清

右を替て俳諧を鎖ひとゝをつけ

改名作者義

號を高生酔

躍

左衛門

東作

みをのを書しはりはりとゝを

右

資石

踊るやをのゝ家敷朝ゝけ

ゝ中よ

ゝ

ゝ

ゝ

右月

左持　遠や

右月は芽さうの山ひき

右　故宮

あの月や陽炎もひの世界

左ふしよ不知勝者

右

左

荒出しりとしらへ拍子物山ある

右持　松虎

校打り世の巣作れ巣

れもやり〳〵と花神元り

千一回君谷うら出さる

行末のこの花をゆめ
忘れ給ふなとの一言
くゆかしきまゝに
物語の始終をとりて
とゝろかせ給ひ
さぶらへとあるを
ゆけし笑しかはひはら

枝ぶりはうつくしゆひのことは人
まさりてゆかしくおもはれ
まりてこゝに世をふるこゝ
ろひとつにけるもの衣へ
けるや額を角(カド)にして鬢の
あたりのやうにおちかゝりゆふ
べのよそほひとりなせて位ぬとる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　遠也

高雅なる[illegible]

[illegible]

神楽

上持　一滴

[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上持　東郷

傾城の門とを閉ぬる

右　夢隠

陽炎の海やなぎのみどれ

たてつゝきをかすとも

ひとの親をとゝ成へく

あハきをを信をあらんやうて

ふゝのをれはうを

春夏句合

白奥　故實

右　勝

ちらうとの何よりも勝もをを

右　来松

洗ひ物ちらうとの白さ哉

たを感情を優艶をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小紙

一篇

松蔭

右

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野子

[illegible]

松蔭

右後

資石

野のゝ草や[illegible]カリ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりひて七つとめの時を
すぎて
ちゝよりみて
くらうをれる和し
ちらうつうの無う
からむ成へ
くく

薬喰

江持　選也

文ちやや・水進とおひくさり合

右　宗養

若俤や野くさ作り合
たちもよわるさてさり
ちくし合をさやや合をさや

除夜の猫と

上持　一滴

除夜よりつゞくねとのる水や明のる

右　兼西

鶴うちの声よ老さとん小ねこ哉

元ちの声も行まね地雪の

さ海えひとろねハをねをめて

夕ゆく鶴かゆるや春を

つるうちねすり釜戸のゆ

ちうちのひゝちゝ行ちゝる

けさうんこつれ雛雄の老

れこのそく

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

左勝　　鶯谷

四位のうち味をもとめぬるかな

右　　一滴

歌ゆへよ詠るかなめけり四めりる

梅

左持　　選地

ほうらんをれなほ落むか袖ふし

右　　蘇生

ほうらんを梅をとりあらはすへむ

かさつをもとめ

左持　　一滴

仏の奥ゆかりひてさうを杜鵑

松鹿

右

ハつまてい遅をよ法けかをつを

蝦

上　　栗柳

[illegible]　　右衛　　藤士

[illegible]　　昇殿

上　　選也

[illegible]　　右衛　　資石

[illegible]　　昇殿

[illegible]　　右持　　松麿

[illegible]　　右　　[illegible]

寒さをいとはさるかの菜つ

鶯　松塵

ト持

初声やまたもいつも新鶯

ト　貢石

初秋やふるさと部屋の時鶯

柳

ト猪　鶯隠

れつるとこしなへよりれぬ柳哉

ト　蕉雨

ゆふ風や美柳よりて涼しさ

枯芝

ト猪　東柳

芝ともよのれて芝枯

右

[illegible]

鷹近

右 猪

[illegible]

右

[illegible]

寒竹

右 持 一滴

[illegible]

右 [illegible]

寒竹[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人しらぬまやの錠のうちにもれたる
夕松の今はの夢人をそれとも木間
あらはれし戸よりはいりこそ其角
思ふまはかあるとはれぬ夢よりさめて少
そぞろして人魂塚の苔はあ一滴
陽炎はかのよりしたの星我宣
もしくやはもぐれ根のうきまくら赤松

数のたをはあつ先ゝう七日の粥銀笙
勝月をつねゝうねゝ屋を稲物蔵
井しるて
ひとさかの人のうらたと井の星 宗泉
万歳をこ月の宵の雑煮哉 人石
春主つをを百(メラリ)の猪や雑の股の男選也
ひまはぬをれ(コタヘ)ぬ未(ヒダ)よ花の山 五南

[illegible]

[illegible]

[illegible]

裏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田家國書

[illegible]

宿山[illegible]

[illegible]

[illegible]

醒井にて

飲かあるかさしてのぼる水ぬるし行

秋

けさ秋の海うらあをんをうつ蓑

柳一八人のるまれうふの星 大カキ

名月や宗長おもひ出て酒

名月や宗長おもひ出て酒

須磨の秋二月の月うつくしき人を言葉

なしとしるべしとて世の秋

二ケ月の秋ぬるとて月の秋

屋根や淀へおりて淀川江水

醒井

六月より出ず

冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山のけしきなり

中よりうちのあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]